おかしな・おかしな

地海月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
おかしな・おかしな

【Ｎコード】
Ｎ１９８１Ｚ

【作者名】
地海月

【あらすじ】
恋愛異端の作者の無謀。ただそれだけ。短編集。意外と書きやすかった。　とらえかた次第で内容が変わります。地海月が書くとこうなってしまう恋愛短編。有りそうでないのか、なさそうで有るのか作者にもわかりません。現在『試作』１『地海月初節』ビデオレター
『虚しき悲恋』真実は本の中『／／／／』テレリテレリ

1

「お幸せに…」

そう呟いてから去った。
初めて愛した人の幸せを見届けた。
初めて恋した人が幸せを貰うのを見届けた。

私の役割は終わった。
君は私のことが嫌いだろう。
君は私のことを忘れることはないだろう。

彼はいい人だ。
君と共に生き
君に幸せを贈り
君は幸せを贈り返すだろう。

役目を終えた道化は去ろう。
君につけられた傷を大事に抱えて生きていこう。

枯れた心は輝が入り
枯れた涙腺からは涙がでない

ああ、何て滑稽なんだ。
踊った先に笑いはなく
演じた先に感動はなく
盛り上げた先に未来がない

遠い喧騒が今は煩わしい。

ビデオレター（前書き）

一組のカップルに贈られたビデオレター。
カップルは慟哭した。
喪ってしまった人をおもって。
もうあえない親友をおもって。

ビデオレター

最初はその笑顔に惹かれたんだ。
君は独りだった僕を救ってくれた。
君がその時何を思ってたか知らないけれど。
差し延べてくれた手が－僕に向けてくれたその笑顔が－僕の孤独を取り除いてくれたんだ。

次にあったとき君は泣いていたね。
なんで泣いてたのか君は言わなかったよね。
僕は何も聞かず、何も言わずに…そっと隣に座った。
孤独から救ってくれた君に恩返しがしたかったから。

三度目にあったとき君は笑っていた。
少し無理してた笑顔だったけど－僕はあの時の恩返しができたと思ったんだ。

僕は君が好きだったんだよ。
三度目にあったときに自覚したんだ。
これが恋なのだとね。

四度目にあったとき、君と友達になった。
君といるだけで幸せだった。

友達になってから一年目くらいの時だっけ？君に恋人が出来たのは。
僕は…君からそれを聞かされたとき笑えてたかな？

それから三人でいろいろしたっけ？
いろいろなところに行ったね。

君は楽しそうだった。
君は幸せそうだった。

君が付き合い出してから二年目くらいのときだったかな？君の恋人が入院したのは。
駆け付けた僕たちは、笑って元気だといってた君の恋人に安心したっけ？
君の安堵の涙が綺麗だった。

僕は二人きりにするために病室を出たね。
遠慮しなくていいのにと二人ともいってたけど。

その後ぷらぷら歩いてる時に知ってしまったんだ。
君の恋人が重い病気で。
臓器が移植出来ないなら- そう長くない期間で死んでしまうと。
幸いわかるほど悪化するのは末期だと言ってたけど…。
僕は…君を悲しませたくなくて一病室にかえった時にどうしたのと聞かれて…最初の嘘をついたんだ。

その後毎日お見舞いに行ったね。
そのたびに辛かったんだ。
僕はしってるけど…君達はしらなかったから。
君を悲しませたくなかったからね。
苦しかったよ、言えないことが。

半年後くらいだっけ？医者に余命宣告されたのって。
君達の顔を僕は見れなかった。
言えばよかったと後悔したよ。
君達の慟哭をみてしまったからね。

それからしばらくして、ドナーが見つかったよ。
誰だったと思う？
そうだよ。僕だったんだ。
だけど僕は健康だった。
他にドナーとなりえる人がいないと知って…膝が崩れおちたよ。
他のドナーを見つける程時間が残されてなかったからね。

日々やつれていく君達をみて…僕は一決心したんだ。

それからの僕の行動は早かったね。
君達に嘘をついてそこらじゅうを飛び回ったよ。
脳天気そうに見えてたのかな？

しばらくして、君達にあったとき君達は僕に怒りをぶつけたね。
僕はその時どんな表情してたかな？
僕は何も言わずに立ち去ったけど。
それが最後だったね。

治るって医者に言われたとき君はどんな表情してたかな？
嬉し泣きだったと僕は思うな。
二人して抱き合ってわんわん泣いてるのが思い浮かぶよ。
その後電話かけてくれてたみたいだね。
ごめんね。僕出れなかったんだ。
…言ってしまいそうだったから。

これを見てるってことは無事に手術は終わったんだね？おめでとう。
直接言えないのが残念だけど、仕方ないよね？僕もう生きてないし。
僕が勝手にしたことだから誰もうらまないでね。
せっかく命はってプレゼントしたんだから。

もう時間も残ってないし…最期にこれだけいって逝くね。
好きだよ…〇〇〇〇。お幸せにね。
●●●幸せにしてあげてね？君は僕なんだから。
バイバイ…〇〇〇〇・●●●。
僕幸せだったよ。
元気でね。
寿命で死ななかったら許さないだからね…。
欲を言えば…君達の幸せ見届けたかったなあ…。
最期にいうことじゃない気がするけどね。

ビデオレター（後書き）

私書き終わって涙出ました（；〇）

真実は本のなか（前書き）

虚しき話

真実は本のなか

なんでこうなったんだろう
なんでこうなってしまったのだろう

私はあなたの幼なじみだった
小さな村の隣人同士
親同士も仲がよかったから
いつも二人で遊んでた
あなたはいつも大人ぶろうとし
私はいつも愚直だった
楽しかった
楽しかった
言葉を交わさずに意志を交わして
いつも二人で遊んでた

成人の儀式を終えてから
二人で河原で誓いを交わしたよね
打ち付けた拳が頬もしかった

村が流行り病で全滅して
二人で優しかったみんなを埋めて
墓をつくって泣いたよね
その時に気付いたんだ
私はあなたが好きだと

村を焼き払ってから旅だったよね
みんなの声が炎から聞こえた気がしたよね
二人でいってきますとありがとうをいって

最初の旅が始まったよね

お金すられて喧嘩したり
宿で旅を振り返って笑いあったり
賞金首相手に無双したり
ハゲの豚を失脚させてスッキリしたり
破天荒だったけど楽しかった

国の首都で政争に巻き込まれて次の旅が始まったよね
道連れが増えたけどみんないいやつだった
みんなで騒いだ珍道中
全部書き留めて本にした
こっそり写本をあなたに贈ったね
私の分はあそこに封印したけど
内容は全部覚えてる
大切な大切な思い出

解散してから最期となっちゃった旅が始まっちゃったね
最初は何時もの破天荒な旅だったよね

ある山を上っていたときに襲撃されて離れ離れにされてしまったとき
全部おかしくなっちゃったんだよね
私は襲撃者を全滅させてから麓におりた
私はおりずに、山であなたを探すべきだったんだよね
麓の街に滞在して情報収拾したけど
あなたのも襲撃者のも、めぼしい情報は見つからなかった
それから一人旅が始まったんだ
あなたがいなくて寂しくて苦しくて悲しかった

三年くらいたって

私とあなたは
再会したね
敵同士という立場で

あなたは私の記憶を失って
あなたの本を改竄されて
私の立場にあいつがおさまって
あなたは私の敵になっていた

あいつの顔とあなたの雰囲気ですぐに私は気付いたんだ
私は嵌められたんだと
上手かったよ
あいつの手腕は悔しいけど私より格上だった
あなたに敵意を向けられて
情けないけど私は逃げたんだ
あいつの高笑いがやけに耳についた

それから私は逃亡生活をおくったよ
みんなには再会できた
みんな憤ってたけど
私は手出しを諦めて貰ったよ
わかってたんだ
もう無理だって

説得が終えてから私は向かえうった
不眠不休で何日闘ったかわからなくなって
血で血を洗うようになったとき
あいつに連れられてあなたはきたよね
私は限界だったよ
あいつの高笑いが

人を嘲る態度が
あなたを自分のものだと言い放つ声が
私に限界を越えさせたよ
どう転ぼうと私は死ぬと理解したけど
あなたはやっぱり強かった
対した抵抗も出来ずに
私はボロゾウキンになった
あなたは泣いてたよね
忘れても失わされても
誓いが涙を流させたのだろうね
あなたが止めを撃ち込むとき
誓いを私は暴走させた
命と私の存在の全てを代償にして
あいつに呪いを
あなたに祝福を
かけたんだ

薄れる意識の中
あいつが破滅するのをみて
あなたが泣き叫ぶのをみて
私は消えた

伝えられなかったけど
私はあなたが好きだったよ
さよなら
ごめんね
みんなによろしくね

●●●●歴〇〇〇年

素晴らしき統治者◇◇◇◇が恐怖に染まった顔で死んでいるのがみつかった。▲▲▲▲大陸連合としては行方不明の▼▼▼▼がこの件に密接に関わってると確信し、生死問わず史上最高額の賞金首として手配することを決定した。◇◇◇◇の☆☆である★★★★★★は廃人となって近くで見つかった。★★★★★★の仲間達はみな憤死していた。◇◇◇◇を殺し★★★★★★を廃人とし、★★★★★★の仲間達を憤死させた▼▼▼▼を史上初にして最悪の■■■■として▲▲▲▲大陸連合は徹底的に断罪し、後世まで赦されざる悪として語りつぐ所存である。

テレリテレリ（前書き）

会話文です

テレリテレリ

「始めてあったのっていつですっけ？」

「…小学入学の時」

「ああ、そうでしたね」

「…急に…何？」

「いや…ふとききたくなりまして」

「そう」

「相変わらず素っ気ないですね」

「うるさい／／／」

「はいはい」

「……手」

「はい？」

「手。出して」

「？…はい」

＜グイッ。ムギュム＞

「!?…!!??」

「////」

「……恥ずかしいならやらないで欲しいです////」

「///うっさい////」

「○○」

「何?」

「今日結婚記念日でしたよね?」

「うん」

「いきません?」

「いく」

▼▼▼▼▼▼▼▼▼▼

「此処に来るのも久しぶりですね…」

「うん…そう」

「あれから●年ですか…早いものですね…」

＜ポテポテ…ポスン＞

「〇〇？どうしました？」

「…怖い…」

「？…ああ、あの時のことですか」

＜コクン＞

＜ポス…ナデナデ…＞

「／／／／」

「大丈夫ですよ…死ぬ時は一緒です」

「わかってる」

「さて、帰りましょうか」

「ねえ…」

「なんでしょうか？」

「ううん…なんでもない」

「…次来る時は●●●後ですね」

「！！／／／／～～～～～っ！バカァ！！！！！」

＜ズドム＞

「ごふっ…」

「／／／／／」

「また…きましょうね」

「うん…」

テレリテレリ（後書き）

テレリテレリが伝わったでしょうか？

四人の軌跡　俺編

俺は今でもお前のこと愛してるんだ。

通り魔に巻き込まれて
ナイフが俺に刺さって
俺が通り魔を殴り倒したとき
お前は気絶しちまったよな

情けなねえけどよ
俺は救急と警察呼んだ後の記憶がないんだ
医者に聞いた話だと
運ばれてきたとき、出血とかで危ない状態だったんだとよ
目が覚めたら一週間たってて驚いた

通り魔はその場でのびてて捕まったよ
ニュースで、でかでかととりあげられてたからお前も知ってるだろうな
誰も僕を大切にしてくれなかったからってのが動機だったか？
甘ったれた奴だと腹がたった
人に求めるだけで、自分はなにもしないダメ野郎だと報じられてたからな
親にさえ見捨てられてたよ
こんな奴にやられたのが
嫌になった
思いかえせば…誰もかもが僕を見捨てる！消してやる！僕は偉いんだ！
とか喚いてたな

医者の話が終わった後
警察からも話を聞いて
聞かれたことを答たあと
お前がどうしてるか聞いたんだ
気まずそうに目をそらされたよ
なんでかその時はわからなかったが
当たり前だよな
お前の記憶から俺が抜け落ちて
お前に前々からアプローチかけてた若いエリート上司が
俺のところにはまっていたんだから

怖ず怖ずと、聞いて後悔しないか聞かれたよ
後悔しないと言って教えてもらったさ
お前が今も入院していることも
お前の記憶から俺が消えたことも
見舞いに来た上司が
たまたま腹に怪我をしていたのをいいことに
お前が俺のことだけを忘れてるのをいいことに、嘘をついことも
お前が上司のプロポーズをうけたことも…
一週間であった全てを聞いたさ
情けないけどショックで一日気絶したさ

また目覚めた時に医者に励まされたよ
不覚にも泣いたさ
ありがとうばかり言いながら泣いた

医者が去ってしばらくしたら
お前の親友がきたよ
泣きながら謝られたね
普段凛々しい奴だから

俺は驚いた
上司からお前を守れなかったことがよっぽど堪えたみたいだった

たまたま県外出張が入ってて
一昨日帰ってきて通り魔に俺らが巻き込まれたのを知り
昨日お見舞いに来て最初に眠る俺をみて
お前が何故此処に来ないのか疑問に思ったそうだ
まだ入院してるのを知ってたからな
お前の病室を覗きにいって愕然としたそうだ
そりゃそうだよな？
上司と楽しそうに幸せそうに語りあって
出張前にはつけてなかった指輪をして
笑ってたんだから

幸い気付かれなかったから、そうと出てから捕まえた看護婦に聞いたそうだ
何があったのかと

医者のところに連れてかれて
俺が知ったのと同じ内容を知らされたんだそうだ
仕事の時間が迫ってたから
昨日は帰って仕事して部屋で泣いたそうだ

悔しかったんだろうな
俺らの殆どを知ってたんだから
お前が幸せそうに俺とのことを話すのも
俺が恥ずかしそうに惚気るのも
俺らとつるんで自分だけ砂糖はくのも…
俺らの側にいつもいたあいつだから
通り魔に憤り、上司に憤ったんだろうな

泣きやんだ後、話をしたよ
お前はそれでいいのか？と聞かれた
それでいいと答えた
悲しそうにしながら
こんな時にいうのも…と言いながら
終わったら付き合わないか？と言われた

俺のことが大切で
お前のことが大切で
俺らが付き合いだしてすぐに
お前には俺が好きだがお前に譲ってやる！幸せにしろ！
俺にはお前が好きだか俺に譲ってやる！幸せにしろ！
っていって、思わず三人で笑った発言をした奴だったから…弱った
俺を支えたかったんだろうな

思わず撫でて了承したよ
あいつのことも好きで、お前のことが大切な俺だったから
泣きながら申し訳なさそうにしながら
くしゃくしゃの顔を俺の胸に沈めて泣きだしたよ
ぎゅっと抱きしめたあいつのちっこい体に安心したよ

お前は俺より先に退院したよな
窓からみてたよ
お前が幸せそうに上司と歩いて退院していくのを
涙を流してな

俺もその後退院したよ
あいつのおかげで俺も立ち直ったよ
情けないけどお前の退院の日からしばらく

俺は虚ろだったんだ

見舞い来たあいつが、俺を見て悲しそうに顔を歪めながら近づいてきたよ
目が死んでたんだろうな
あいつの胸に抱き寄せられて言われたよ
泣いていいと
思わず泣いたよ
あいつの温かさと匂いに癒されながら
虚ろだった俺は立ち直った

退院してしばらくして
お前の結婚式に出席したよ
あいつに誘われたんだ
退院して始めてお前を見にいけたのがその時だ
それまで、情けないが顔を見にいけなかった
傷は癒されていってたけど深かったからな

式の後、あいつに頼んでお前と上司を呼び出したよ
始めてましてと言い
始めてと返されるのが
辛かった
あいつが辛そうに俺を見て
お前を悲しそうな顔で見てたっけ

お前が新郎の親のところに行った後
新郎に幸せにしてやって下さいといったときの
奴の顔は見物だった
あいつが大丈夫かと隣で見てたから
目で大丈夫だと伝えたよ

新郎に、うらんでないのかと言われたよ
卑怯なことをしたことの自覚はあったんだろうな
うらんでないさと言った時愕然としてたね
な…なんでと言われたから答えてやったさ
お前が幸せならそれでいいんだと

何がいいたそうにしてた新郎が、お前に呼ばれてさるときに
いってやったよ
幸せにならなかったら承知しないと
幸せにしなかったら承知しないと

終わってしばらく立ってたよ
二人で複雑な感情を整理するように涙を流しながら
しばらくして、あいつがいった
帰ろうかと
終わったねと
これからよろしくと
俺は
ああ、帰ろうかと
終わったなと
こちらこそ、相棒と

俺とお前の道は途絶えたけど
俺は今もお前を愛しています
俺はあいつと
お前は上司と
生きていくのだろう
俺はお前の幸せを祈ることしかできないけど
お前への愛は伝えられないけど

いつか三人でまた笑いあえるように
いつか四人でつめるように
俺はしようと思う

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1981z/

おかしな・おかしな

2011年12月10日07時45分発行